

三浦半島周辺で観察されるウミウシ類

今年度の実施を予定していた観察会「親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」と「ウミウシの観察会」について、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響に伴い、参加される方の安全面を考慮し、昨年に引き続き今年も開催を中止といたしました。参加を楽しみにされていた皆様には、残念なお知らせとなりましたことをお詫び申し上げます。

ここでは、これら観察会を行う予定であった神奈川県横須賀市の三浦半島周辺で観察されるウミウシについて、過去の観察会の記録から簡単にご紹介します。今回は磯に行くことができませんでしたが、写真とともに海に行った気分を楽しんでいただけたらと思います。来年以降になりますが同イベントの開催を企画いたしますので、その際は奮ってご参加ください。

観音崎公園周辺

毎年5月頃に子供向けの観察会「わくわくウォッチング」を開催しています。年によって出現するウミウシが少し異なりますが、よく見られるのはアオウミウシ、イソウミウシ、サガミミノウミウシなどです(図1A, B)。青色や橙色、ピンク色で目立つので比較的に見つけやすいです。また同じウミウシを食べてしまうキヌハダウミウシもよく観察されています。平べったい体をしたドーリスの仲間、サンシキウミウシ(図1C)やクロシタナシウミウシが見られます。これらはウミウシの仲間の中では比較的大きめで、石の裏に付着していることが多く、地味な色で目立たないので少し見つけにくいかもしれません。また、白色のオトメウミウシやシロウミウシ、体色が様々なゴマフピロードウミウシ(図1D)などが観察されたり、海藻からはアズキウミウシが見つかります(図1E)。

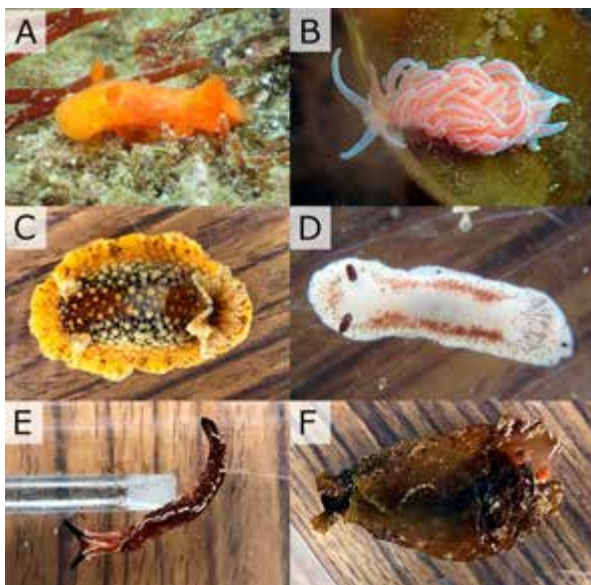


図1 A: イソウミウシ, B: サガミミノウミウシ, C: サンシキウミウシ, D: ゴマフピロードウミウシ, E: アズキウミウシ, F: ミドリアメフラシ。

磯で一番よく見かけるアメフラシもウミウシの仲間です。触っていると紫色の液体を出すので、観察会ではいたるところで海水が染まっているのを目にします。よく似たミドリアメフラシという最大5cm程度の種もいるので、小さいアメフラシを見つけたらどの種であるか、しっかり確認します(図1F)。

観察会では小さなお子さんたちでも様々な種類のウミウシを見つけることができ、親子で楽しんでいただけたらと思います。

天神島臨海自然教育園(天神島)

今年の5月下旬に「ウミウシの観察」を実施予定だった天神島で見られたウミウシを紹介します。以前、見学した横須賀市自然・人文博物館の観察会では、約20種のウミウシが観察されました。観音崎公園でも見られるような前述の種のほかに、大型になるネズミウミウシやクモガタウミウシなどが見られますが(図2A, B)、これらは岩の裏などに付着しています。最大体長が5mm以下のオカダウミウシも観察されましたが、非常に小さいので見つけるのは困難です。ウズマキゴカイの棲管を生息場所とするため、まずはこれを見つけて探します。そのほか、シロウミウシ(図2C)、サラサウミウシ、コモンウミウシ、ダイダイウミウシ、ユビウミウシなどが観察されました(天神島周辺は県の天然記念物に指定されている保護区であるため、観察したウミウシは海へ戻します)。天神島は斜めに走る岩盤が様々な生物の住処や隠れ家になるため、それらに付着するウミウシもまた多く観察できると考えられます(図2D)。

毎年の観察会で見られるウミウシは年によって変化しますが、水温や開催日などによる影響があると思われます。磯の観察会では大人数で観察するため、たくさんの情報を得ることができます。今後も、どんな生物が観察されたのか、ウミウシ以外の無脊椎動物も含め記録を残していきたいと考えています。

(片山英里)



図2 A: ネズミウミウシ, B: クモガタウミウシ, C: シロウミウシ, D: 自然教育園から見える天神島の海岸。